

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 9日

豊田市長殿



提出者

住所 東京都千代田区外神田4-5-4

氏名 株式会社ニッセーデリカ 代表取締役 吉田 輝彦
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-3253-6411

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社ニッセーデリカ 名古屋工場
事業場の所在地	愛知県豊田市大清水町大清水111-1
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	09:食品製造業
② 事業の規模	製造品出荷額:56億5850万円
③ 従業員数	460人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	植物性残渣:再生処理業者に委託し選別し堆肥処理として再資源化 廃プラスチック:再生処理業者に委託し破碎後燃料として再資源化 混合物:再生処理業者に委託し破碎後分別しそれぞれ再資源化 汚泥:再生処理業者に委託し発酵処理後肥料として再資源化

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

名古屋工場 工場長
↓
名古屋工場 副工場長
↓
名古屋設備管理課 (長)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 具材ごとの準備量、トッピング量管理による動植物残渣排出量削減 ・ 発注管理、在庫管理による無駄な排出量削減 (動植物性残渣、廃プラスチック類)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 具材ごとの準備量、トッピング量管理による動植物残渣排出量削減継続 ・ 発注管理、在庫管理による無駄な排出量削減 (動植物性残渣、廃プラスチック類) ・ 鮮度延長化による生産計画の明確化		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラスチック類、混合物、動植物性残さはそれぞれに分別し保管
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 特になし

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	1011 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	213 t	t
	再生利用業者への処理委託量	1011 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物処理業者の見直し		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	992 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	212 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	992 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・優良認定処理業者への移行		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

別紙

現状	【前年度(2022年度)実績】				
	産業廃棄物の種類 排出量	動植物性残さ 613t	廃プラスチック 175t	混合物 2.19t	汚泥 211t
(これまでに実施した取組) ・具材ごとの準備量、トッピング量管理による動植物残渣排出量削減 ・発注管理、在庫管理による無駄な排出量削減 ・排水処理処理安定活動による汚泥処理量削減					
計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類 排出量	動植物性残さ 610t	廃プラスチック 170t	混合物 2t	汚泥 210t
(今後実施する予定の取組) ・具材ごとの準備量、トッピング量管理による動植物残渣排出量削減 ・発注管理、在庫管理による無駄な排出量削減 ・排水処理処理安定活動による汚泥処理量削減 ・鮮度延長化による生産計画の明確化					